

IDDNewsletter.....8

August
2022



特集

2022「高聳祭ディスプレイ」を終えて

情報デザイン科では、例年、本科の学校祭（高聳祭）に合わせて、インスタレーション[※]作品を制作しています。今回のテーマは、“Diversity”（多様性）です。今号では、学生の活動の様子と完成した作品を御紹介します。

※取り付け、設置の意味。現代美術の手法の一つである。作品を単体としてではなく、展示する環境と有機的に関連づけることによって構想し、その総体を一つの芸術的空間として呈示すること。また、その空間。（「goo 国語辞書」<https://dictionary.goo.ne.jp/jn/> より）

2022「高聳祭ディスプレイ」を終えて

情報デザイン科では、例年、本科の学校祭（高聳祭）に合わせて、インスタレーション作品[※]を制作しています。今回のテーマは、“Diversity”（多様性）です。今号では、学生の活動の様子と完成した作品を御紹介します。



情報デザイン科では、毎年、科目「造形デザイン」の授業の一環として、本科の学校祭（高聳祭）に合わせ、インスタレーション作品を制作しています。この活動は、学習の成果を多くの方々に見ていただく良い機会になっていますが、今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため感染拡大予防を徹底した中での開催となりました。多くの皆様に御覧いただけなかったことは残念ではありますが、学科だよりを通して学生の活動を御紹介したいと思います。

今年度のディスプレイのテーマは、“Diversity”です。直訳すると「多様性」です。外国から日本に移動してくる人たちが年々増えてくる中、言語や文化的な背景を異にする人々との共生が求められています。そして、それは、聴者とうろろ者においても同様の関係性を読み取ることができます。

今回は、現代の日本社会における喫緊の課題を造形的にどう表現するかに挑戦します。特に、例年と異なり「イメージ語」ではないので、その解釈と比喩力が問われてくることとなります。

作品制作は、1、2年合同で2グループに分かれて制作しました。

展示場所は、「本科棟と専攻科棟をつなぐ渡り廊下」制作グループ（以下「廊下グループ」）、「専攻科北側階段」制作グループ（以下「階段グループ」）が担当しました。制作にあたっては、各学生の解釈とアイデア、表現方法の選択に任せました。その結果、廊下グループは、一人一作品、持ち場を決めて制作し、階段グループは、三人合同で一つの作品を制作しました。

各グループ共に“Diversity”という概念を熟考し、表現方法について試行錯誤しながら、検討していきました。結果として、「コンピューターグラフィックスを使って作成を進めた学生」や「3Dプリンターを駆使して立体物を取り入れながら制作した学生」「3人で何度も話し合いを重ね、コミュニケーションを取りながら合同制作を進めた学生」等、それぞれが普段の授業で学んだ知識・技術をフル活用して取り組みました。

以下、各グループのコンセプト及び学生のコメントを御紹介いたします。

○廊下グループ

「ありのままの集合体」

基本的な形だけではなく、変形した丸や多角形を取り入れ、多様性を表現した。

「Connection」

人は個として尊重されなければなりません、しかし、やはり同じ人間です。同じ人間であるからこそ「差分」が重要と考えます。そのときの「同じ」クラス内の要素の「差異」が織りなす意味の階層的なつながり。そのこと自体をコンピューターグラフィックスで表現しました。

「多様性」

東京は、外国から、多様な民族が集まる地。スクランブル交差点を行き交う人々の多様な思いを表現してみました。

○階段グループ

「Relation」

世界の人々が一人一人属性を異にしているのは自明のことです。みんなが持つ多様な属性を受け入れながら、一人一人が生活しています。そのような世界の有り様を示すため、糸を素材に、人と人とのつながり自体を表現することを試みました。



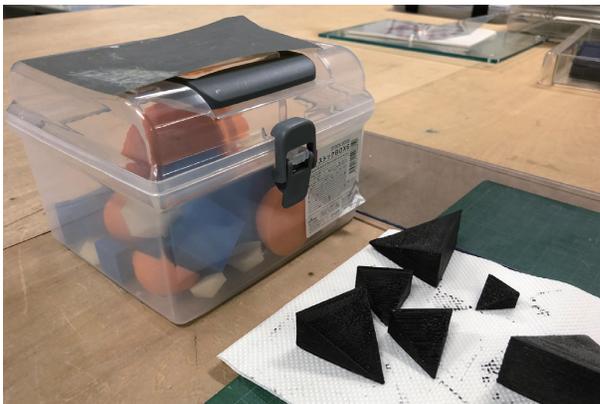
また、情報デザイン科の学生び教員全員による合同制作のインスタレーション作品「夏の桜」も専攻科校舎光庭に展示しました。

以下に、担当職員からの説明を紹介させていただき、締めくくりとさせていただきます。

「夏の桜」は、日本の「花見」の文化から着想したインスタレーションです。毎年同じように咲く桜のほんの僅かな差分を楽しむ有り様とは、上位概念が共通なものだからこそ比較できるという多様性の概念と重なっています。その共通部分に着目し、在籍学生それぞれの作る花の微妙な差分を“Diversity”の比喩として提示することが本作品のコンセプトです。

今年のインスタレーション作品も全員で力を合わせ最後まで真剣に取り組み、個性に富んだ作品が完成しました。本校公式 Web ページにその時の撮影写真がありますので、ぜひ御覧ください。

IDDN



Contents

特集

- 2-3 **2022「高聾祭ディスプレイ」を終えて**
～『給食だより』のリデザインを通して、学校の思い込みをブレークスルーする～
情報デザイン科では、本科の学校祭（高聾祭）に合わせて、インスタレーション作品を制作しています。今回のテーマは、「Diversity」（多様性）です。
今号では、学生の活動の様子と完成した作品を御紹介します。



Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科学科だよりをお読みいただきまして、ありがとうございます。

今年度ももう半分を過ぎました。

3名の新生を新たに迎え、全部で6名の学生でスタートした令和4年度ですが、やはり、高聾祭ディスプレイを通過する前と後で、相当雰囲気が変わってきます。

学生にとっては、初の大作の制作となりますし、連日の「ハレ」の活動は、精神的な高揚も大きいものと思います。

ここで得た経験は、年度の後半に相当大きく影響していきます。もちろん良い意味です。

学生たちの価値ある学びのため、今後もより一層、授業の内容や指導方法に努めてまいります。

専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「標準教育」の教育課程です）
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト^(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTPやWebに係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Webであれば、HTML5とCSS3を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトやcenterタグは使いません！）
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前で教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

August 2022 8

IDDNewsletter August 2022

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。